

工業簿記 B		准教授 広原 雄二	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 選択必修科目 教職科目	科目ナンバリング	23010204 25320210

1. 授業のねらい・概要

工業簿記は、製品の製造活動、すなわち、原材料や労働力といった経済的資源が製品になるまでの過程を簿記という手法によって、組織的に記帳し計算するものである。この手法によって提供される情報は、財務諸表を構成する貸借対照表や損益計算書の作成のための基礎的データとして用いられることから、製造業にとっては、その必要性が極めて高いといえる。

本講義では、工業簿記を理解するうえで、必要な基本的用語の説明を行うとともに、各計算手法についての習得を行う。とりわけ、ここでは標準原価計算についての理解を深める。

2. 授業の進め方

テキストに基づいて授業計画に沿った講義形式を基本とする。また、理解の定着を図るため、必要に応じて練習問題を行う。

3. 授業計画

1. 工業簿記概説	9. 直接原価計算 (1) (直接原価計算方式による損益計算書)
2. 部門費の計算	10. 直接原価計算 (2) (全部原価計算方式との比較)
3. 組別総合原価計算	11. C V P 分析 (1) (損益分岐点売上高)
4. 等級別総合原価計算	12. C V P 分析 (2) (その他の指標)
5. 工程別総合原価計算	13. 営業費の計算
6. 連産品の原価計算	14. 工場会計の独立
7. 標準原価計算 (1) (材料費と労務費)	15. まとめ
8. 標準原価計算 (2) (製造間接費)	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストを使って復習しておく。さらに、授業時に指示した参考文献に掲載されている練習問題にも解答しておく。なお、これらの準備学修には、1.5 時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

工業簿記の基本的な概要を理解して、標準原価計算についての理解を深める。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（40%）および定期試験の結果（60%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、廣本敏郎他（2013）『段階式日商簿記ワークブック 2 級工業簿記』税務経理協会を使用する。ただし、授業内容を補足するために、参考文献を適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

受講の要件としては、商業簿記の基礎知識があることが望ましいが、そうでない場合も、理解できるように説明する。